

事例3

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代男性。橋出血発症後、肺炎合併の患者。
- ・ 死因は、緊張性気胸による換気不全。死亡時画像診断（以下Ai） 有、解剖無。
- ・ 気管挿管の長期化により、集中治療室で気管切開術（U 字切開）を施行。気管壁と皮膚の縫合不明。気管切開チューブと皮膚の縫合固定不明。
- ・ 逸脱当日の呼吸管理：自発呼吸、酸素5L/分投与。
- ・ 気管切開術当日、集中治療室で体位変換の10 分後、頸部から前胸部にかけて皮下気腫を発見。吸引カテーテル挿入困難、声漏れあり。経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）低下し、気管切開チューブを介して加圧換気するが送気不能。気管切開チューブを抜去し気管切開孔から経口用の気管チューブを挿入するが、同日死亡。Ai にて縦隔気腫、緊張性気胸を認めた。